

## 2016年度 卒業式式辞

中京大学学長 安村 仁志

Felicitaciones! Félicitations! Glückwunsch! Поздравляю вас! 恭喜  
Congratulations!

グローバル時代ですから、世界の主な外国語で申してみました。「おめでとうございます！」

本日卒業される学部生・大学院生の皆さん、教育・指導にあたっていただいた教職員の皆さん、理事会・来賓の皆さん、学びを支え本日ご出席いただいたご家族の皆さん、おめでとうございます。こぞって共に喜ぶということがコングラチュレーションの意味です。

卒業を祝って、三つの英単語を挙げて門出のことばを贈りたいと思います。university—diversity—adversity です。語呂合わせのような単語です。versity が共通しています。

学生の皆さんが今日卒業されるのは、大学 university です。大学のことをなぜ university というのでしょうか。この語は中世ラテン語のユニヴェルシタス universitas が元で、全体、世界、社会といった意味です。それはユニ uni 《一つ》に versus 《向けられた》という語からできており、「一つになった」「一つの目的をもった共同体」ということでした。このように、university はさまざまな学問領域が一つになっている場ということで、まさに総合大学という意味になります。本学も文系、社会系、理系、スポーツ系の十一の学部及び十一の研究科がある、言わば《知の小宇宙》です。そうした場で皆さんは四年、六年、それ以上を過ごされました。その間、知らず知らずのうちに、自分の属する学問領域＝学部・研究科だけでなく、授業や研究会、課外活動を通じて他の学問領域の人たちと接してきたのです。それには大きな意味があります。さまざまな学問領域が存在しているという、大きな学びの環境の中に身を置いていたということです。

ここに第二の語 diversity が関係してきます。これも di 《離れて》と versus 《向けられた》の合成語で、「別々に離れて向く」の意から今日の「多様性」となりました。グローバル時代に入ってよく耳にする語ですが、元々は企業などで人種・性別・年齢・信仰などにこだわらずに多様な人材を生かすといったことでしたが、大学も高校までより多様な地域から集まっている学生・教職員がいて多様な学びがなされる場です。皆さんも共に学びつつ、さまざまな人たちとの出会いを経験してきたことでしょう。自分とは異なることを学んでいる、関心を持っている人たちが集うなかで出会いの多様性も生み出されるところが大学でした。この経験も大きな意味があります。

こうして皆さんは多様性のある大学 university で学んで、卒業されるわけです。卒業は一つの区切りであり、定められた期間に定められた学業を修め、卒(お)えたということですが、大事なことは、ここからその区切りを経て新しいことが始まるということです。卒業

式のことばは commencement (始まり)ともいう所以です。企業に入る、教師・公務員になる、さらに学びを続ける、起業する、家業を継ぐなどさまざまな形で、期待感をもって新しい生活に入っていこうとしているわけです。

少し古めかしい譬えかもしれませんが、船出です。眼前に広がる広大な海に帆を張って出ていくことです。

学歌の三番を見てみましょう。「白梅香る学風に ああ研鑽の師と弟が ひとしく望む渺瀰(びょうび)たる 四海の幸福(さち)と同胞(はらから)の 文化を高めんわが行手 暴風雨(あらし)を越えて進まん 見よや中京中京の 歴史燦(さん)たる旗かざし」。「渺瀰たる」とは水が限りなく広がっている様子を表しますが、世界の幸せを目指して出ていく姿を謳っています。どうぞ皆さんには、diversity に満ちた学びの場であった university で身につけたものを胸に、帆をいっぱい張って船出してください。

しかし、吹くのは常に順風とは限りません。逆風・嵐のこともあるでしょう。その故に逆境に陥ることもあるかもしれません。その逆境が adversity です。ad-は《…の方に》、例の versus 《向けられた》との合成語で「そちらを向く→逆を向く」の意になったようです。願わくは逆境には陥りたくない、そんな思いを私たちは持ちますが、残念ながら、現実にはそうでないことがあります。ですからといった方がいいでしょう、古今東西立派なことわざ・フレーズが残されています。Adversity makes a man wise (逆境は人を賢くする)、これは日本語のことわざでは「艱難汝を玉にす」にあたります。困難なことにぶつかると人は輝く石に磨かれていくということです。また、古代ローマの賢人キケロのことばに、英語に直すと ” Friends are proved by adversity.” があります(よく聞け口と言っているように思えます)。人間関係について、逆境に陥ったときこそ周りにいた人が真の友人かどうか分かる、逆境を通して真の友に出会える、とっているのでしょうか。もう一度申します。皆さんには、diversity に満ちた学びの場であった university で出会った友がいます。生涯にわたり、励まし合い、助け合う友情関係を維持してください。

贈る言葉としてはもう十分かもしれませんが、もう一つだけ申します。《経験》ということについてです。

経験には、「前に進めてくれるアクセルの働き」と、逆に「鈍らしたり、止めてしまうブレーキの働き」があるということです。経験を積むことで勇気や多少の自信を得て、私たちは進んでいきます。それはアクセルの役割です。反面、経験を積んでくると、それに基づいた自分なりの見通しができて、準備がおろそかになったり、新しいことに向かう意欲が弱くなるような気がします。「この程度やっておけば大丈夫」と思ったり、逆に「いままでの経験上、これは無理だ」と諦めようとするのです。こうした経験の持つ二つの作用を忘れないでください。自分なりの経験だけに頼るのではなく、常に謙虚に物事の一つ一つに向かっていただきたいと思います。そして学歌二番にある「進取(自ら進んで物事をする事)」の伝統を生きてください。

中京大学は皆さんにとって、生涯にわたる母校であり、旅立ち、また戻り立ち寄る母港・母なる港です。どこに生活の場、活躍の場をもっても、折りがあれば、常に戻ってくることのできる母校、母港です。

私たち大学はそれにふさわしく今後とも教育活動の発展に努めてまいります。また、大学教育の根ざすべき研究活動を高めてまいります。皆さんにも常に応援してください。

皆さんのご健闘を心よりお祈りします。